

日本ジャーナリスト会議 (JCJ)
〒101-0051 千代田区神田神保町1-18-1 千石屋ビル402号
電話 03-3291-6475 FAX 03-3291-6478
メールアドレス: jcj@tky.3web.ne.jp http://www.jcj.gr.jp
年間購読料3,000円(送料込み) 振替・00190-2-76501



ジャーナリスト

THE JOURNALIST

2015.10.25

沖縄を巡るJCJ全国交流集会

日米政府と対峙する

軍事基地の弊害、戦争のむごさ実感

今年のJCJ全国交流集会は、16日から18日の3日間、沖縄県で開いた。沖縄での交流集会は、3年ぶりで、参加者は26人。経済学者で埼玉大名誉教授の陣峻淑子さんを始めJCJ非会員も10人



野戦病院だった識名の壕(ガマ)で沖縄平和ネットワークの横田真理子さんから話を聞く 撮影=沢田正

余り加わった。(↓2面に関連記事)

「世界一危険な飛行場」を実感した。

にも行き、一行は住民と一緒に座り込みに参加した。宿泊は米軍から返還された土地に造られた施設「やんばる学びの森」。

3日目は平和ガイド役を務める横田真理子さんと専用バスで沖縄戦のツメ跡を巡った。国籍、軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなった24万人の名前が刻まれた記念碑「平和の礎(いしじ)」は、沖縄戦終結50周年を記念して95年6月に

つくられた。その3カ月後に米兵による少女暴行事件が起きた。平和の願いとは真逆の悲惨な出来事。横田さんは「あの事件が平和ガイド役への道に進むきっかけでした」と胸の内を明かした。

1日目は、まず沖縄タイムス本社を訪問。2階ギャラリーで同社編集局長長兼報道部長の石川達也、政経部記者の福元大輔、琉球新報社論説副委員長の前久原均、編集局長の普久原均、編集局社会部長の与那嶺明彦の4氏から米軍基地問題、米海兵隊新基地建設予定地の名護市辺野古と東村高江のオスプレイパッド(離着陸場)建設の各反対運動の現状などの報告を受けた。その後、宜野湾市の海兵隊普大間飛行場を視察。嘉数(かかず)高台公園から見る飛行場は市街地の中にある

2日目の午前はオスプレイパッド建設阻止を目指すテントを訪ねた。すでにパッド二つは新設されたが、残る四つのパッド建設を阻止するため活動を続けている。ガイド役を務める07年から反対運

動を続けている伊佐育子さんは「戦争に加担したくない。これ以上基地の拡大は許さない」と訴えた。こちらでも皆、座り込みを行った。午後は那覇市内で行われた沖縄県マスコミ労働組合協議会主催の反戦ティーチン「聞け!」沖縄の民意(こゑ)に参加。地元メディア記者の問題意識の高さに感心させられた。夕方から

橋詰雅博

「知事と共にガンバロウ!!」と大きく書かれた黄色地の横断幕が掲げられていた。この日で座り込みは4198日に達していた。対応したヘリ基地反対協議会共同代表の安次富(あしとみ)浩さんは「沖縄のことは自分たちで決める。基地との共存共栄は拒否する」と強く語った。さらに辺野古米海兵隊基地キャンプ・シュワブのゲート前で抗議活動を続けるテント村

日本ジャーナリスト会議(JCJ)は今年、創立60周年を迎え、11月29日に東京で記念シンポジウムを開く。テーマは「アジア政治を許さない!」シンポジウムではテレ

シンポジウムではテレビジャーナリスト金平茂紀氏が問題提起をし、東京新聞政治部長の金井辰樹氏、弁護士の大江京子氏、SEALDs(シールズ)の学生が発言し、ジャーナリズムの今後の課題・役割を明らかにしていく。詳細は次の通り。

▼会場 エデユカス東京(全国教育文化会館)7階ホール(東京都千代田区二番町12の1)
▼参加費 1000円(学生500円)
▼同シンポジウム終了後、午後6時から同じ会場で「JCJ60周年記念大交流会」を開催する。こちらは立食形式で参加費5000円(学生1000円)。要予約。大交流会に参加希望の方は事前にJCJ事務局までファックスか、メールで申し込む。

野党共闘求めるコール 戦争法廃止へ運動高まる

安倍政権が採決を強行して戦争法を成立させた9月19日、国会前や全国各地で「9・19を忘れない」と誓った人々は、同法廃止へ向けて戦いに立ち上がっている。

戦争法反対で運動にインパクトを与えた学生グループのSEALDsは18日、渋谷で大学生や高校生ら数千人規模の街頭行動を行った。野党5党のあいさつに「共闘、共闘」のコールが広がり、学生が「野党の共闘を後押ししよう」と訴えた。最大の焦点となる来夏の

参院選で野党統一候補実現へ向けた、若者たちの期待の声だ。

その一方で、米原子力空母「ロナルド・レーガン」に乗艦してはしゃいで見せる。「自衛隊員を海外で一人も死なせるな」と国会前で叫ぶ市民への露骨な挑発だ。

SEALDsの学生たちが参院選を見据えて野党協力を促し、新風を吹き込んだ。「安倍首相に日本を任せて置いては危



10月18日 渋谷の街頭行動(レイバーネットHPから)

機に、政治のあり方を考え、自発的な意思と仲間との討議を積み重ねた結果手にしたものだけに、説得力を持つ。新鮮な呼びかけに多くの市民が共鳴する。戦争法に反対する市民団体「戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会」は、毎月19日を戦争法廃止要求の統一行動日とし、廃止運動を全国で展開する。同時に、2千

万人を目標に統一署名運動を行うことを決定している。我々は、この提起を着実に実行し、一回りも二回りも運動を大きく拡大して安倍政権を追い詰める。参院選の野党統一候補については、共産党が提起した国民連合政府構想も踏まえ、実現することが必須の課題だ。

統一候補が実現し結果が伴えば、政治にダイナミズムを与え、市民革命の始まりとなるだろう。 河野慎一

は要らない」などと声を

最大

き丁寧

う公約

た福島

この直観

この直観

この直観

この直観

この直観

この直観

この直観

この直観

この直観

発言し、行動しよう。一人ひとりがジャーナリスト。JCJ60周年。



新基地反対、住民座り込み

「二度と戦場にさせぬ」決意

日本ジャーナリスト会 承認を取り消したことで反対運動がいつそう活発化していることを報告。建設に反対する闘いの現場を訪ね、沖縄県民との連帯を深めた。

名護市辺野古への新基地建設に反対する、2004年4月以来約4200日にわたって続けている「ヘリ基地反対協議会」の安次富(あしとみ)浩共同代表は、翁長雄志知事が埋め立て



辺野古海岸のテント前で。中央は共同代表の安次富浩さん

「承認を取り消したことで反対運動がいつそう活発化していることを報告。建設に反対する闘いの現場を訪ね、沖縄県民との連帯を深めた。」

「島ぐるみ会議」が運行するバスで県内各地から連日、数百人が座り込みに参加していることを紹介し、「知事が言っているように、沖縄の将来は私たちが決める。基地との共存共栄を拒否し、平和の発信基地に変える。二度と沖縄を戦場(いくさば)にさせない。これが原点」ときっぱり語った。

交流会参加者は、カンパを手渡し、ともに座り込んだ。

米海兵隊基地キャンプ・シュワブのゲート前に設置された新基地建設工事に抗議するためのテントも訪ね、座り込みに参加した。

沖縄本島北部の「やんばる(山原)の森」で知られる豊かな自然に包まれた小さな集落の東村高江。ここでも米軍の新たなヘリパッド(ヘリ着陸帯)を造る工事が強行されている。

工事現場の入り口付近



キャンプシュワブ・ゲート前のテント村 撮影=沢田正

「戦争法が成立して1カ月余。安倍首相は「アベノミクスは第2段階。参院選では改憲がテーマ。一億総活躍社会を作る」と宣言。全員「日本会議」の右派総集体内閣を作ったが、デモと追及を恐れ憲法に基づく臨時国会召集も拒否。一方、運動の側は「これからは闘いだ」と、毎月19日の総掛かり行動など大小集会が目白押し。「野党協力を」の声も強まっています。

危険性を指摘した。

最終日の18日には、南部戦跡を平和ガイドの横田真理子さんの案内でめぐり、沖縄戦の悲劇に思いをはせた。

森近茂樹

「人権侵害」他人事でない

日からウロコの沖縄初体験

私は広島島の民間企業に今春就職した社会人1年生だ。JCJの会員ではないが、沖縄の問題に関心があるので今回参加させてもらった。沖縄の地を踏むのは初めて。

「沖縄は国からお金をもらっているのだから基地を受け入れるのは当たり前」と言う人がいるが、間違っている。――初日に地元紙の記者から話を聞いて目からうろこが落ちる思いがした。

「沖縄は国からお金をもらっているのだから基地を受け入れるのは当たり前」と言う人がいるが、間違っている。――初日に地元紙の記者から話を聞いて目からうろこが落ちる思いがした。

「蔵省と折衝する仕組みにしてお金をもらっている」という誤解を生んでいる」と琉球新報の普久原均論説副委員長は話した。この名称は、1972年の本土復帰から始まっているという。

それまで沖縄は米軍統治下にあり、国会議員もいなければ中央省庁に沖縄出身の官僚もいない。予算の折衝が困難であるというところで、旧沖縄開発庁が沖縄関係の予算を一括計上し、当時の大

「蔵省と折衝する仕組みにしてお金をもらっている」という誤解を生んでいる」と琉球新報の普久原均論説副委員長は話した。この名称は、1972年の本土復帰から始まっているという。

それまで沖縄は米軍統治下にあり、国会議員もいなければ中央省庁に沖縄出身の官僚もいない。予算の折衝が困難であるというところで、旧沖縄開発庁が沖縄関係の予算を一括計上し、当時の大

視 角

▼国会を逃れた首相が国連で打ち上げたのは「法改正で一層の国際貢献が可能になった。常任理事国に入れて」という大國主義。非常任理事国には当選したが、難民受け入れを聞かれると「人口問題として言えば我々は移民を受け入れる前に女性の活躍と高齢者の活躍」という恥かしい答え

▼「なぜこんなに一生懸命かからないか、米財界の「代貸し」にならなかつたTPPでは、農産物95%、工業製品100%の関税撤廃。怖いのは進出企業万能の「投資家対国家紛争解決」(ISDS)制度や、特許、保険など重要項目だが、すべて説明しないまま。これは「日本の文化」の問題だ▼辺野古問題では翁長知事が埋め立て認可を取り消したが、防衛省は執拗に閣内閣は退陣しかない。

中野氏は「秘密保護法」成立の時と異なると何の挫折感もないとし、法案反対運動の盛り上がり、を「確実に日本の民主主義はバージョンアップした」と評価した。そのうえで中野氏は課題も指摘した。一つはサラリーマン層、財界などからの反対の声が少なかったこと、また国会前に来たことも来れない人がいること。

来年以降の選挙について、中野氏は「立憲主義・民主主義擁護」だけで闘えるのかと問題提起し、経済問題の重要性を語った。そして自・公の政策が矛盾だらけであり、とても「現実的」と

許してはいけない、沖縄の問題を私たち自身の問題として受け止めなければいけないと痛切に感じた沖縄初体験だった。

矢崎恭子

日本の民主主義はバージョンアップ

院内集会で中野晃一氏講演

「戦争法」採決強行から1カ月後の10月19日、国会前集会の午後5時に参議院議員会館で、立憲フォーラムと戦争をさせない1000人委員会主催で院内集会が開かれた。政治学者の中野晃一上智大学教授が講演。

「お金をもらっているのだから」という見方は沖縄の人たちを二重三重に傷つけている。

「本土の人にわかって

中野氏は「秘密保護法」成立の時と異なると何の挫折感もないとし、法案反対運動の盛り上がり、を「確実に日本の民主主義はバージョンアップした」と評価した。そのうえで中野氏は課題も指摘した。一つはサラリーマン層、財界などからの反対の声が少なかったこと、また国会前に来たことも来れない人がいること。

来年以降の選挙について、中野氏は「立憲主義・民主主義擁護」だけで闘えるのかと問題提起し、経済問題の重要性を語った。そして自・公の政策が矛盾だらけであり、とても「現実的」と

許してはいけない、沖縄の問題を私たち自身の問題として受け止めなければいけないと痛切に感じた沖縄初体験だった。

矢崎恭子

秋のジャーナリスト講座始まる

「被災者の今」を たゆまず発信し続ける

毎日新聞特別報道グループ 日野行介記者を招く

秋のジャーナリスト講座が10月4日から始まった。初回は「記者の仕事とは―原発事故被災者取材で考えた」と題し、毎日新聞特別報道グループの日野行介記者が話を



原発事故の取材体験を語る日野行介記者

した。東京電力福島第一原発の事故から4年7カ月が経過するなか、国は「原発事故は終わり」という姿勢を露わにし、福島県が自主避難者への住宅無償提供を17年3月で

打ち切る方針を出すなど「被災者を見捨てる動きが進んでいる」と警鐘を鳴らした。

福島原発事故では、放射線量が年間20ミリシーベルト以上の強制避難地域に住んでいたか否かで被災者への処遇が異なる。強制避難地域ではない場所に住み、放射線の影響を避けるため他地域に避難した人たちは「自主避難者」と呼ばれ、その数は福島県の推計によれば2万5000人に及ぶ。

日野記者は今年6月16日付・毎日新聞朝刊の記事を示し「住宅無償提供を打ち切られたら、自主避難者は放射線が残る家

に戻るか、他地域で自力定住するしかない。家は売れないから、自力定住となれば二重に住宅ローンを抱えるのに近い」と指摘した。

そもそも原発事故の被害と自然災害の被害を同じ法律・発想で対応している行政の姿勢に間違いがある」と日野記者が述べた。

「原発事故は被害の広さがケタ違いであり、基準も不明確だ。期間の長さでも、自然災害の場合、この程度なら復旧できる」といった相場観があるが、原発事故にはない。かつ事故を起こした原因者が明確にすることも自然災害と異なる」と

取材で感じるのは国家という「アンパイヤー」（規制主体）と対峙して記事を書く困難さだとい

う。役所からの個人攻撃や、「風評被害」「危険をあおるな」といったネット上に報道を押しさえつけ言葉が蔓延する問題を

挙げた。もう事故は終わったという雰囲気も気になる。日野記者は「被災者はいま、避難の選択肢

をなくして放出されようとしている。その実情を発信し続ける必要がある」と記者の役割を強調した。

沖縄タイムス東京支社報道部長の宮城栄作記者は「失敗談」を披露した。「20代のころ、取材で役所の書類の情報公開請求をした。全部長の事務引き継ぎ書で、重要部分は黒塗りだった。そのとき、取材相手に言われた言葉が今でも思い出す。

『足で稼がない沖縄タイムスの記者は初めてだ』と。手取り早い取材も大事だが、生の情報を得るには人を介すること。それ以来、1日にかならず誰かと飲むという原則を自分に課した」

「取材先と近くなり過ぎて、聞いたことを書けず『ちょっと待て』と言われていたうちに、他紙に抜かれたこともある。ほかの取材先とも接触するなど、一定の距離を置かないといけない」

話し始めた。「滋賀県の長浜に3年いた。琵琶湖に歩いて行ける。漁師に取材したり、盆踊りに行ったりと、記者のすべてを学んだ」と振り返った。「33歳で政治記者に。記事の書き方が違っていて戸惑った。まともに書けるようになるのに3年かかる。政治の世界は独特だ。新聞・テレビが全力で取材し、海外メディアもいる。ハイエナがうろうろしている世界にきたという印象だった」

「政治取材ではオフレコがある。そのため、実名の談話と匿名の発言という形で、同じ人が2回記事の中に出てくる世界だ。政治家が議員宿舎に帰って来るまで、ずっと待ち続ける。待つことに慣れることも必要」と語りながら、「政治家と癒着してはいけない」と強調した。

11月23日午後1時半からは、日本テレビ報道局チーフプロデューサー、谷原和憲氏（真相報道パンキシャ）を担当が登壇し「テレビ報道番組の現場」について話す。会場は東京・日比谷図書文化館小ホール。資料代は各回1000円。要予約で、申し込みは左記に氏名、希望日、連絡先を明記しメールで。

11月のジャーナリスト講座「新聞、テレビ報道の現場から」

秋のジャーナリスト講座は11月も開催する。7日は午後1時半から「地方紙記者の新たな役割―中央と地方の複眼思考」と題して、神奈川新聞の松島佳子記者と信濃毎日新聞東京支社報道部長の五十嵐裕裕記者が語り合う。

中央紙とは異なる地方

をめぐるといって「新三本の矢は、「安保」から「経済」へという池田内閣による1960年代のシフト変換を彷彿とさせる。

だが「アベノミクス第一ステージ」の検証もなく、具体的方策も示さないことだ。だが、いまま打ち上げられたこの政策が「絵に描いた餅」にすぎないことは明らかだろう。

問題は「経済」と連動して進められている「安保」の拡大強化であり、

「数」の力に奮る安倍政権は、内閣改造を行って来年の参院選に向けての「政策」を発表した。GDP600兆円、出生率1・8、介護離職せ

くのであろうか。ほとんどの憲法学者、および最高裁判事、内閣法制局長官経験者が違憲と指摘する安保関連法案は、議会の質疑に

政府側がまともに答え

る。

る。

る。

3記者 現場取材を語る

「失敗談」も率直に政治家との癒着許さず

10月10日のジャーナリスト講座は「現場記者座談会」で、3人の記者が仕事の辛さ・面白さを語った。朝日新聞社会部武蔵野支局の青木美希記者は大学卒業後、北海道ムスに入り、同紙が倒産後、北海道新聞に移った経緯、さらに道警裏金問題の取材体験を話した。

「北海道タイムスの月給は手取りで16万円。実家は6人兄弟で貧しく、月

7万円を任送りにした。食費は1日200円で、警察の売店で買うおにぎり2個がその日の食事だった。刑事部屋に入って取材するうちに、捜査費がなくて困っている、調べてくれという話を聞いた。一方で署長には『お小遣い』が用意される。見知らぬお金が出る不思議。後にこれが警察の裏金だとわかった。5年前に朝日新聞に移り、特

地建設を強行しようとしていることも、日本産業界の軍事化と無関係ではあるまい。このままだけは、自衛隊の米軍との一体化が進み日本産業界の軍事化は避けられない。それは世界の軍拡と不安定化に手を貸し、経済を疲弊させて人々の生命・生活を破壊する道である。

軍事基地を拒否する沖縄では、「品格のある国家」を要求し「アジアの架け橋」になろうとの声が高まっている。ヤマトンチュウもそれに応えなければならない。

をなくして放出されようとしている。その実情を発信し続ける必要がある」と記者の役割を強調した。

沖縄タイムス東京支社報道部長の宮城栄作記者は「失敗談」を披露した。「20代のころ、取材で役所の書類の情報公開請求をした。全部長の事務引き継ぎ書で、重要部分は黒塗りだった。そのとき、取材相手に言われた言葉が今でも思い出す。

『足で稼がない沖縄タイムスの記者は初めてだ』と。手取り早い取材も大事だが、生の情報を得るには人を介すること。それ以来、1日にかならず誰かと飲むという原則を自分に課した」

「取材先と近くなり過ぎて、聞いたことを書けず『ちょっと待て』と言われていたうちに、他紙に抜かれたこともある。ほかの取材先とも接触するなど、一定の距離を置かないといけない」

東京新聞政治部の原田悟記者は支局の体験から

話し始めた。「滋賀県の長浜に3年いた。琵琶湖に歩いて行ける。漁師に取材したり、盆踊りに行ったりと、記者のすべてを学んだ」と振り返った。「33歳で政治記者に。記事の書き方が違っていて戸惑った。まともに書けるようになるのに3年かかる。政治の世界は独特だ。新聞・テレビが全力で取材し、海外メディアもいる。ハイエナがうろうろしている世界にきたという印象だった」

「政治取材ではオフレコがある。そのため、実名の談話と匿名の発言という形で、同じ人が2回記事の中に出てくる世界だ。政治家が議員宿舎に帰って来るまで、ずっと待ち続ける。待つことに慣れることも必要」と語りながら、「政治家と癒着してはいけない」と強調した。

11月23日午後1時半からは、日本テレビ報道局チーフプロデューサー、谷原和憲氏（真相報道パンキシャ）を担当が登壇し「テレビ報道番組の現場」について話す。会場は東京・日比谷図書文化館小ホール。資料代は各回1000円。要予約で、申し込みは左記に氏名、希望日、連絡先を明記しメールで。

11月のジャーナリスト講座

リレー時評



J.C.J代表委員 吉原功

世界の中の日本の軍事化

シリア難民が西洋諸国に押し寄せ止まるところを知らない。ギリシヤや他の財政困難国を抱えるEUのさらなる試練だ。

ロシアがシリア領内を空爆しイラン、トルコがそれを支持、米国は独裁政権を支援するものと非難している。米国が理不尽な理由で開始したイラク戦争がシリア難民の原因となったこ

の医師と住民を殺傷した。日本ではその米軍を、世界のどこにでも出かけて行って支援する法律が「成立」した。それを受けてテロリスト集団「イスラム国」は日

りえないことだ。だが、「数」の力に奮る安倍政権は、内閣改造を行って来年の参院選に向けての「政策」を発表した。GDP600兆円、出生率1・8、介護離職せ

大野晃の スライムコラム

ラグビーの第8回ワールドカップ(W杯)の取材が、英国各地を転々としているが、一般的な関心の低さに、いささか驚いている。ラグビーの母国には違いないが、ラグビー校を訪れるW杯出場代表のサポートは少ないが、街がわいているわけではない。日本人の珍しさもある。

ラグビーW杯 冷めた母国の人気

ラグビーW杯の第8回ワールドカップ(W杯)の取材が、英国各地を転々としているが、一般的な関心の低さに、いささか驚いている。ラグビーの母国には違いないが、ラグビー校を訪れるW杯出場代表のサポートは少ないが、街がわいているわけではない。日本人の珍しさもある。

各地域と近隣の代表の試合を中心に、公表された観衆が8万人を超えた試合が8、7万人以上が4とEU開催の地の利で観衆が多くイベント興行としては成功しているらしいが商売の世界の話。日本代表の試合の観衆は対南アフリカ代表戦が最高で2万9290人だった。旧東京国立競技場で空席が目立つ数字だ。試合内容は、ウェールズ、アイルランド、スコットランド各代表のハットトリックがそろってニュージーランド人で、欧州の伝統をいっていてもプレーの実績は、南半球の影響が大きい。

W杯は4年後に日本の12都市で開催されるが、日本人の関心を呼ぶか。今回のW杯での好成績にファンは期待が高まるが母国の冷めた人気は不安を感じさせる。英国エジンバラ市にて(スポートジャーナリスト)

メディアが報じないリニア新幹線の実態

自然破壊、水涸れ、残土処分先など課題山積

JR東海の住民軽視に、反対運動拡大中

JRJ出版部会10月例会は、23日に岩波セミナーホールで「悪夢の超特急」リニア新幹線―その闇を暴く―と題した講演会を開催した。講師を務めたのは『悪夢の超特急』リニア中央新幹線(旬報社)で2015年度JCJ賞を受賞したフリージャーナリストの樫田秀樹さん。参加者は52人。

JR東海が事業を手がけるリニア中央新幹線が実現すると、東京・品川と新大阪間(2045年開通予定)がわずか67分で結ばれると喧伝されている。総事業費は9兆円と、史上最大鉄道プロジェクト。27年開通予定の品川と名古屋間の第一期工事は間もなく着工される見込み。樫田さんは、山梨県でリニア実験線の走行実験

「昨年、リニアと対峙する神奈川県民団体がNHKの看板番組『クローズアップ現代』の密着取材を受けた。残土処分問題のひとつのケースとして番組で取り上げようとした。ところが放映前日、ディレクターが「放映できなくなった」と言ってきた。理由も明かされなかった。安倍首相の経済ブレーンの集まり『四季の会』代表はJR東海の葛西敬之名誉会長が務めている。この会からNHK経営委員に送り出される人が多い。放映中止になったのはNHK上層部から圧力があつたからだと思う」

メディアが実態を報道しないため国民の多くはリニア新幹線の数々の深刻な問題を知らぬままだ。『夢の超特急』のイメージだけが頭の中に刷りこまれている。

しかし、一方ではJR東海の住民軽視のやり方に反発した反対運動は拡大中。その運動を展開する市民団体は20以上立ち上がった。昨年末、リニア新幹線沿線住民ネット

「シタイヒヤ(やったぞー)10月13日午前10時過ぎ、座り込みの続くキャンプ・シュヴァート前テントに、どよめきと歓声が上がった。翁長雄志知事が県庁で記者会見し、仲井眞弘多前知事が行った辺野古埋め立て承認を取り消したことを発表したので。

この歴史的瞬間を現場で迎えたいとテントに話しかけた人々はこの日、何度か何度も力強い歌を踊り、互いに抱き合ったり、歌やダンスで喜びを炸裂させた。その中には、闘病生活から復帰した沖繩平和運動センター議長・山城博治さんの姿もあつた。もちろん、そ

この歴史的瞬间を現場で迎えたいとテントに話しかけた人々はこの日、何度か何度も力強い歌を踊り、互いに抱き合ったり、歌やダンスで喜びを炸裂させた。その中には、闘病生活から復帰した沖繩平和運動センター議長・山城博治さんの姿もあつた。もちろん、そ

この歴史的瞬间を現場で迎えたいとテントに話しかけた人々はこの日、何度か何度も力強い歌を踊り、互いに抱き合ったり、歌やダンスで喜びを炸裂させた。その中には、闘病生活から復帰した沖繩平和運動センター議長・山城博治さんの姿もあつた。もちろん、そ

この歴史的瞬间を現場で迎えたいとテントに話しかけた人々はこの日、何度か何度も力強い歌を踊り、互いに抱き合ったり、歌やダンスで喜びを炸裂させた。その中には、闘病生活から復帰した沖繩平和運動センター議長・山城博治さんの姿もあつた。もちろん、そ



樫田秀樹さん

「シタイヒヤ(やったぞー)10月13日午前10時過ぎ、座り込みの続くキャンプ・シュヴァート前テントに、どよめきと歓声が上がった。翁長雄志知事が県庁で記者会見し、仲井眞弘多前知事が行った辺野古埋め立て承認を取り消したことを発表したので。

この歴史的瞬間を現場で迎えたいとテントに話しかけた人々はこの日、何度か何度も力強い歌を踊り、互いに抱き合ったり、歌やダンスで喜びを炸裂させた。その中には、闘病生活から復帰した沖繩平和運動センター議長・山城博治さんの姿もあつた。もちろん、そ

この歴史的瞬間を現場で迎えたいとテントに話しかけた人々はこの日、何度か何度も力強い歌を踊り、互いに抱き合ったり、歌やダンスで喜びを炸裂させた。その中には、闘病生活から復帰した沖繩平和運動センター議長・山城博治さんの姿もあつた。もちろん、そ

この歴史的瞬間を現場で迎えたいとテントに話しかけた人々はこの日、何度か何度も力強い歌を踊り、互いに抱き合ったり、歌やダンスで喜びを炸裂させた。その中には、闘病生活から復帰した沖繩平和運動センター議長・山城博治さんの姿もあつた。もちろん、そ

この歴史的瞬間を現場で迎えたいとテントに話しかけた人々はこの日、何度か何度も力強い歌を踊り、互いに抱き合ったり、歌やダンスで喜びを炸裂させた。その中には、闘病生活から復帰した沖繩平和運動センター議長・山城博治さんの姿もあつた。もちろん、そ

返還目前の香港ツアー

吉原功

1997年5月31日と表現したが、小島修(土)から6月2日(月)、国際部が中心となり、中港には経済力があるが政治と人間の自由とかを考えたくなかった。香港取材旅行を行った。

このデモの生々しい光景を撮ったカメラマン酒井憲太郎さんのフィルムが盗難に遭い、大騒ぎとなった。貴重な記録写真が失われたわけで、実に残念なことであった。

ミニニュース

橋詰雅博

- 9条かながわ大集会2015 in横浜 「戦争を止める国にさせてたまるか！」
- 日時 11月11日(水) 19時〜21時
- 会場 関内ホール大ホール
- 参加協力券 999円
- 講演 山口二郎さん(法政大学教授)
- 主催 九条かながわの会



香港中心街の民主化要求デモ

報道統制について言葉の二・二八事件、韓国の光州事件などの「人民の闘い」が称揚され、自由と民主が叫ばれる大デモの香港人を「国籍難民」

聞けばフィリピンから来たメイドさんたちで、日曜日は雇い主の家にはいられないので、このように集まって情報交換しているのだという。

デモ参加の香港の皆さん、フィリピン女性たちはその後、どのような人生を送っているのだろうか。

中継リポート

連載

朝行動には、沖繩選出国會議員、沖繩県議団、各市町村議員を含む500人がゲート前に集まり、知事の取り消しによって違法となつた基地建設作業を監視する行動と集会を行った。海上でも力強い抗議行動が行われ、ヘリ基地反対協議

浦島悦子



伊藤力司の



オバマ米大統領は10月15日、アフガニスタン駐留米軍を2016年末までに撤退する計画を見直し、同大統領の任期が終る2017年以降も5500人規模の兵員を残留させると発表した。プッシュ前政権が2001年に始めたアフガン戦争終結

秘密保護法違憲訴訟原告団

新橋駅前でリレートーク

制服向上委員会も登壇



制服向上委員会メンバーもアピール

「知る権利を奪う秘密保護法は廃止」「安倍首相はやめろ」――フリーのジャーナリストら43人が東京地裁に提起した特定秘密保護法違憲訴訟の東京原告団が、9月29日夕方から実施したJR新橋駅前S1広場での街宣活動は、大きく盛り上がった。

この日はゲストによるリレートークが売り物。街宣カーに最初に登場した原告でジャーナリストの安田浩一さんは「秘密保護法は国民の知る権利を奪う法律。情報を国家が独占してしまう」と、その危険性を訴えた。

この後、結成24年目に入った社会派アイドルグループの制服向上委員会メンバー4人が登壇。サブリーダーの斎藤優里彩さんが「秘密保護法廃止集会に参加できてうれし。裁判勝利の願いを込めて歌います」とあいさつ。

あの日第九の歓喜の歌の替え歌とオリジナル「歌える場所があれば」の2曲を披露し、暴走する安倍政権批判を歌で表現していた。

秘密保護法対策弁護団事務局長で弁護士の藤原家康さんは「安倍政権は人治主義。法治主義が崩れ、秩序が乱れている」と指摘した。

最後に司会者が、参加できなかった「生活の党」共同代表の山本太郎参院議員からの応援メッセージを読み上げ、街宣は終了。

秘密保護法は「稀代の悪法、秘密保護法は廃止」と言い切った。

秘密保護法の怖さをテーマにした演劇「それは秘密です。」を演出した植原拓さんは「芝居が現実になる」と危惧。憲法学者の日本大教授の清水雅彦さんは「秘密保護法は『秘密保護法』によって外交、防衛、警察などの情報が一方的に隠される。反対と叫び続けなければならぬ」と強調した。

原告代理人の弁護士、堀敏明さんは「裁判と国民的な運動で秘密保護法をつぶすことは可能だ」と述べ、社民党の福島みずほ参院議員は「反民主主義、反立憲主義、反知性主義の安倍首相を退陣に追い込む」と自らを鼓舞した。

来年末までのアフガン撤退を断念

もので、アフガン駐留米軍トップのJ・キャンベル司令官は10月初め米議会に証言。14年前に米軍が政権から追放したタリバンが近年急速に支配領土を拡張して

中心とする国際治安支援部隊が2014年末までに戦闘任務を終え、アフガン治安部隊の訓練など後方支援に軸足を移した。しかし今年

上半期には、治安部隊は「秘密保護法と集団的自衛権行使は一体。米国の戦略が背景にある」と分析した。

アフガンでは米軍を支援しているが、少数民族のウズベク人(9%)が住む北部のクンドゥーズ市

タリバンはこの国で人口比42%の多数派パシトゥン人で構成さ

テロ攻撃を繰り返す一方、政権との和平交渉にも応じている。タリバンの最高指導者ウマル師が、2013年4月に亡命先のパキスタンで死亡したことが最近公表されたが、後継者で和平派のマンズール師に対して強硬派はウマル師の息子を後継者に立てて、カブール政権による和平交渉をストップさせようと画策している。米軍は泥沼から足を抜けられないようだ。

タリバンは、アフガン人が選挙で選んだ現力

成功させている。イスラム原理主義のタリバンは、かつて侵攻ソ連軍とジハード(聖戦)を戦ったムジャヒディン(イスラム聖戦士)の生き残りであり、異教

ブル政権に対してもテロ攻撃を繰り返す一方、政権との和平交渉にも応じている。タリバンの最高指導者ウマル師が、2013年4月に亡命先のパキスタンで死亡したことが最近公表されたが、後継者で和平派のマンズール師に対して強硬派はウマル師の息子を後継者に立てて、カブール政権による和平交渉をストップさせようと画策している。米軍は泥沼から足を抜けられないようだ。

放送中止のドラマ「ひよろし」

神奈川支部が見る会を開く

原告団が持参した「11月18日判決」と書かれたチラシ1000枚のうち

1962年に福岡のRKB毎日放送が制作したテレビドラマが、直前になってスポンサーの要請で放送されず、その後一度も放送されていない。メディアへの介入事例として広く知られている。

10月9日、神奈川支部ではその「ひとり子」を見る会を開き、メディア総研事務局長の岩崎貞明氏の話聞いた。

ドラマの舞台は熊本市。大学の工学部志望の高校生新一が力試しに防衛大学校を受験し、合格するところから始まる。

青年座がまたまた男性ばかりの演劇を立ち上げた。しかし、前回の『外交官』が日本人の書き下ろした、ある意味で日本の支配階級である(外交官)を取り上げた演劇であるのに対し、こちらはドナルド・ビーヴァンとエドモンド・トルチンスキーという2人のアメリカ人による共同執筆で、第二次大戦中にナチス・ドイツに収監されたアメリカ市民たち(捕虜)の話である。演出は齊藤理恵子。

長男を特攻で失った旧地主の家庭で、従軍記者だった父親は戦前を懐かしんで喜ぶが、母親は大反対。家族を空襲で失った新二の恋人も防大進学に反対する。

防大進学は技能を身につけるためと割り切っている。

青年座がまたまた男性ばかりの演劇を立ち上げた。しかし、前回の『外交官』が日本人の書き下ろした、ある意味で日本の支配階級である(外交官)を取り上げた演劇であるのに対し、こちらはドナルド・ビーヴァンとエドモンド・トルチンスキーという2人のアメリカ人による共同執筆で、第二次大戦中にナチス・ドイツに収監されたアメリカ市民たち(捕虜)の話である。演出は齊藤理恵子。

折も折、ジュネーブの人権監察官(山野史人、ナチスの大尉と二役)の訪問するところとなり、ダンバーはいったん部屋に戻される。しかし監察官が帰ってしまえば、ダンバーの命がどうなるかは明白だった。リーダーのホフマン(山賀教弘)を中心に一同は再び脱走の計画を立てる。「一人では無理だ。しかも万一見つかった時に、探照灯の灯かりを自分に引き付ける役の人間がもう一人いる――」

折も折、ジュネーブの人権監察官(山野史人、ナチスの大尉と二役)の訪問するところとなり、ダンバーはいったん部屋に戻される。しかし監察官が帰ってしまえば、ダンバーの命がどうなるかは明白だった。リーダーのホフマン(山賀教弘)を中心に一同は再び脱走の計画を立てる。「一人では無理だ。しかも万一見つかった時に、探照灯の灯かりを自分に引き付ける役の人間がもう一人いる――」

青年座スタジオ公演 『第十七捕虜収容所』

この中にスパイがいる

演劇回り舞台

「この中にスパイがいる」と疑いは、日ごろ仲間から物資を巻き上げ

折も折、ジュネーブの人権監察官(山野史人、ナチスの大尉と二役)の訪問するところとなり、ダンバーはいったん部屋に戻される。しかし監察官が帰ってしまえば、ダンバーの命がどうなるかは明白だった。リーダーのホフマン(山賀教弘)を中心に一同は再び脱走の計画を立てる。「一人では無理だ。しかも万一見つかった時に、探照灯の灯かりを自分に引き付ける役の人間がもう一人いる――」



撮影：坂本正樹

安住邦男

日本外交への直言 回想と提言

河野洋平

政治的な宝——村山談話の精神を発展させよ

冷戦が終結した1990年以降の激動期に外相... 起こさないこと」と説く

著者は「最も重要なこととして、従軍慰安婦問題... 95年8月15日、村山内閣が「戦後50周年の終戦記念日にあたって」と題する「村山談話」を発表した。

書評

本・BOOK・ほん

（価格は税別です）

日本外交への直言

河野洋平

みに対する歴史認識を示したもので「極めて貴重な、政治的な宝である」と評価する。しかし、現在の日本は「平和とは正反対の方向に向かっている」と危惧を表明、「日本への信頼の基礎となるのは、村山談話である」と強調し、村山談話の精神をさらに発展させる必要を訴える。（岩波書店1900円）

河野慎二

益川敏英

科学者は戦争で何をしたか

「今こそ科学者としての生き方が問われる」と説く警告の書



著者は、ノーベル賞受賞の科学者だが、平和・社会問題の活動家でもある。1万4千人余の賛同を集めた「安全保障関連法」に反対する学者の会「九条科学者の会」の設立発起人である。科学者を考える時、我々研究者

を悩ますのは、民生にも軍事にも利用可能な『デュアルユース』という問題だ」と指摘する。たとえば、テレビの電波障害対策に開発された塗料が、レーダーに引っかからないステルス戦闘機に使われたことを紹介。この場合、自分に関係ないところで兵器に転用されているのだから「仕方がない」「責任はない」と一言で片づけられるだろうか

ヒロシマの少年少女たち 原爆、靖国、朝鮮半島出身者 関千枝子

喪失感と生き残った後ろめたさ 級友たちの「戦後」を見据える



アメリカのB29が広島に原爆を投下した1945年8月6日朝、中心部で建物除去して広い防火帯をつくる作業をしていた中学、女学生たち約6千人が亡くなった。当時13歳、広島県立広島第

二高等女学校二年西組の生徒だった著者は、ひどい下痢で休んでいた。ほかに6人が欠席。現場で級友38人が死亡し、1人が奇跡的に助かった。喪失感と生き残った後ろめたさ。新聞記者を振り出しに文筆活動を続けてきた著者は40年後、級友たちの軌跡を丹念に調べて『広島第二県女二年西組』を世に出した。それから30年。今の少年少女たちに日本の教育史上最大の悲劇を知ってほしいとの思いが本書に込められている。

著者は級友たちの「戦後」も見据える。なぜ「最年少の英霊」として靖国神社に合祀されているのか。亡くなった勤労学徒を準軍属として遺族年金

短歌

現代の窓

評小石雅夫

御供 平佑（国民文学）

三つ並ぶ台風消ゆる梅雨明けを曇らす強行採決の顔 現代短歌10月号「憂ひの夏」

憲法に文言あらぬ自衛権歯止めもあらぬ武装のあやし 同

九条が封じ込めたる七十年籜弾くるは世界の危険 同

軍隊があれば根性を叩き直すなど戦後の酔語 同

今夏は各地に次々と集中豪雨が襲い土砂災害をともなうさまさまな被害をもたらしました。7月初めには梅雨時とも重なった11・12・13号とトリプル台風ともいわれる気象状況があつて、その後やっと7月19日ごろに梅雨明けとなりました。 一首目は、ちょうどそのころ7月16日には国会衆議院で「安保法案」―「戦争法案」が自・公の数による強行採決がおこなわれて、やっと台風が消え梅雨が明けても、それをさらに曇らせる最悪の政治暴走・災害への発生転換を憂っています。 二首目は、まさに憲法のどこにも、誰が読んで書かれていないことを憲法に違反して強行採決をし、しかもその内容にいたっては国会審議でも自衛権の行使も武器武装の使用にも歯止めもないという無謀なものであることを国民としてあたりまえの疑問として率直にいつています。 三首目の、憲法九条がこの七十年封じ込めたものとはなんでしょうか。戦争と武力の行使です。戦争によつて「一人の外国人も殺さず、一人の日本人も殺されない」で、きたことです。それがいまその「籜」が外されかけています。これは「殺し殺される」行為を世界に宣言していくことです。 四首目は、そうした国家体制へ向けて国民、わけても青少年への精神主義的な諸方策が酔語ではなく現実となつて各分野に轟く気配を感じ取りはじめています。（「新日本歌人」編集長）

『否常識のススメ』 水野誠一著 (ライフデザインブック ス1400円) 著者は西武百貨店社長、慶応大学教授、参議院議員という華麗な経歴を持つが、特に企業家としての業績は評価が高い。本書はマーケティング論書という体裁をとっているが、その範疇には収まらない。もつと広く深く世界を見ている。本書の社会的考察は未来学へとつながる。ことに面白いのは第5章「時代はスパイラル」で、3つの単語から時代の動きを捉える。例えば「理性・感性・知性」を示し、そこからモノづくりを掘

り下げる「深化」と「進化」のスパイラル運動が始動すると説く。 「管理・合理・倫理」「実感・共感・交感」の間・時間・空間……言葉遊びのようだが、これらの言葉を足がかりに「脱」「超」のスパイラルから成熟化期への移行を考えようとする。マーケティング理論というより、時代考察の社会学という読み方のほうがピンとくる。決して明るい未来のみを展望しているわけではなく、政治や経済の全事象が際どいパランス上であり、ひとつ狂えば崩壊するという脆弱な現実をも指摘する。 鈴木耕（編集者）

『減反廃止』 荒幡克己著 (日本経済新聞社2600円) 新農業政策を掲げる安倍政権は、看板の一つとして40年以上続いた減反政策を2018年度に終了する方針だ。 農水官僚から大学に転じた著者は、この減反政策について、欧米の事例と比較検証しながら、その経緯と特徴、功罪などを詳細に分析。減反廃止後の日本農業のあり方を展望している。 日本農業の劣化をもたらした減反政策の歴史をトレースするには便利な書だが、その検証の姿勢には暖昧さも多い。「減

反廃止は競争力強化の出発点」と位置づけ、「廃止後は少ない面積で高反収、世界に追いつく稲作、残る農地で飼料生産拡大へ」と展望する。 しかし、米作に取り組んできた多くの地域農業や生産者に打撃を与える問題、とりわけ環太平洋経済連携協定（TPP）の大筋合意が、コメ生産に与える大きな障害について、論理的な説得力に欠ける点も目立つ。 安倍政権による減反廃止策は、農産物輸入の1層の「自由化」が進むことを織り込んだもので、こつした視点が弱いのが本書の課題である。 榎木誠（常盤大学講師）



映画の

鏡

絶望の中の日本人

『日本零年 フクシマからの風第二章』

ドラマで描く原発被災

映画はまず東日本大震災の被害の現状を映す。後がドラマになり、日本がれきの映像の上に、死の絶望が描かれる。



©東風舎

夫は街から遠く離れた東京の、普通の家庭に起る怪異な悲劇である。

監督の加藤哲が2012年に作った『フクシマからの風』第一章では、福島県川内村で70年代か

は現代社会の片隅に生きる男女の孤独を浮かび上がらせる。夫は街から遠く離れた東京の、普通の家庭に起る怪異な悲劇である。

昨年7月1日に閣議決定した集団的自衛権の行使容認に必要な憲法9条の解釈変更について、「内閣法制局が経緯

この軽薄なことは違和感を覚える。上から目線の「アベ政治」を象徴するものだ。側近を担当するの相に任命したが、何を

立たしたという安全保障関連法について、約1000社の中小出版社で構成する日本出版者協議会は28日、参院特別委での採決の無効などを求める声明を出した。

公文書残さず」と大きく報じた。公文書管理法にも反する深刻な事態だ。

家族を殺害するという脅迫状を送りつけられた。発再稼働に意欲を示す。憲主義や民主主義、野党共闘を求める声にさらに高まる。これは「2015年安保闘争」を特色づけるものだ。

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす

「軍事大国」「グローバル競争大国」にするため①自衛隊を海外に出動させて、自由に戦争に介入できる態勢づくりの軍事大

追及を恐れて国会も開けない安倍政権

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす

新聞

「軍事大国」「グローバル競争大国」にするため①自衛隊を海外に出動させて、自由に戦争に介入できる態勢づくりの軍事大

追及を恐れて国会も開けない安倍政権

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす

月間マスコミ批評

戦争法廃止を求める国民のたたかいは続いている。頭を整理するため、渡辺治氏の「戦後安保法制の大転換と安倍政権の野望」(経済11月号)を参照しよう。

「軍事大国」「グローバル競争大国」にするため①自衛隊を海外に出動させて、自由に戦争に介入できる態勢づくりの軍事大

追及を恐れて国会も開けない安倍政権

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす

出版

「軍事大国」「グローバル競争大国」にするため①自衛隊を海外に出動させて、自由に戦争に介入できる態勢づくりの軍事大

追及を恐れて国会も開けない安倍政権

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす

大国を支える戦争法VS国民

「軍事大国」「グローバル競争大国」にするため①自衛隊を海外に出動させて、自由に戦争に介入できる態勢づくりの軍事大

追及を恐れて国会も開けない安倍政権

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす

安倍政権は、日本を

「軍事大国」「グローバル競争大国」にするため①自衛隊を海外に出動させて、自由に戦争に介入できる態勢づくりの軍事大

追及を恐れて国会も開けない安倍政権

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす



日本ペンクラブ会長が表明

「自由と生命を守る映画監督の会」(仲倉重郎代表)は26日、「表現者として、一個の人間として政権を許すことはできない」などとす

権力の暴走 抵抗と挑戦の記録

連載「時代の正体」にみる神奈川新聞の気骨



(現代思潮新社、2015年8月31日発行)

神奈川新聞の論説・特報面に連載中の「時代の正体」が再構成されて書籍化された。

「時代の正体」の連載を 読みやすく書籍化

第一章「安全保障」の暴走は、SEALDsの国会前抗議行動、ツイッターで首相補佐官と「論争」した浪人生、小林節慶大名誉教授などを取材している。

第二章は「抑圧の海」米軍基地を問うのは地元横浜の米軍機墜落事故や横須賀基地ばかりでなく、

辺野古の新基地建設などが取り上げられる。翁長沖縄県知事に「なぜ辺野古基地建設反対」という容易ではない道を決断したのか」と、記者会見で率直に質問した松島佳子記者の記事は出色だ。

第三章「ヘイトスピーチの街」は朝鮮学校をめぐる問題、ヘイト本に對抗する出版人、反ヘイトデモなどが描かれる。

第四章「戦後70年」扇動と欺瞞の時代には、実教出版教科書採扱妨害の各記者。

や日本会議をルポしているほか、高畑勲監督などが時代の危機を語っている。

五章「熱狂無きフアンズ」は、想田和弘、内田樹、高橋源一郎、辺見庸各氏へのインタビューだ。記者の姿も思い浮かぶ記事となっている。

担当は石橋学記者をデスクに織田匠、柏尾安希子、北川文、桐生勇、斉藤大起、佐藤将人、佐野克之、田崎基、松島佳子

取材班のデスクはヘイトスピーチをかねてから取り上げ、その背景などを鋭く取材してきた石橋学記者。このシリーズで特筆すべきことは、デスクだけでなく担当するそれぞれの記者が取材対象に深く寄り添い、自分の視

点や思いをきちんと入れ込みながら、自分の言葉で記事にしていることだ。読者は自然と記事に引き込まれて、記者が感じ、訴えた問題の深層を受け止めていったのではないか。

その連載が一冊の本にまとめられて、9月に現代思潮新社から出版された。これまで連載されたものを抜粋して五章に再構成した。

「時代の正体」は現在も進行中である。

神奈川支部では、このシリーズとして本をぜひ多くの人たちに紹介したいと思い、石橋さんにお話を伺った。

全国紙に負けず劣らず格闘している神奈川新聞の気骨をぜひ読み取っていただけたらと思う。

神奈川支部では、このシリーズとして本をぜひ多くの人たちに紹介したいと思い、石橋さんにお話を伺った。

取材班のデスクはヘイトスピーチをかねてから取り上げ、その背景などを鋭く取材してきた石橋学記者。このシリーズで特筆すべきことは、デスクだけでなく担当するそれぞれの記者が取材対象に深く寄り添い、自分の視

神奈川新聞の論説・特報面で2014年7月から連載を始めた「時代の正体」というシリーズを「存じだろつか。サブタイトルには「権力はかくも暴走する」とある。

「届いてない」実感
今まで自分たちの書いていないことが、社会に届いていないと感じていま

「届いてない」実感
今まで自分たちの書いていないことが、社会に届いていないと感じていま

幸い地方紙は小さい所帯なので小回りはきまます。プロダ「カナロコ」の関わりは、10年前なら読者にも「神奈川の新聞だから」と言われたと思う。でも全国でおこっている問題はないが、神奈川で起きている。

NHK包囲行動
「アベチャンネル」は「メンダ」！「NHK包囲行動」第2弾
日時 11月7日(土)
NHK(渋谷) 西門前
午後1時30分〜2時45分
集会(リレートーク、コール) 午後2時45分〜3時15分 移動
▼デモ出発地点(宮下公園北側) 午後3時15分〜3時30分 デモコースの説明・諸注意、コールの練習午後3時30分〜4時デモスタート
▼ゴール 神宮通公園
▼主催 11・7NHK包囲行動実行委員会



新聞記者は社会を作る当事者と強調する石橋学さん 撮影 伊東良平

地方紙の「枠」を取り払いたい
取材班デスク 石橋学記者に聞く

「届いてない」実感
今まで自分たちの書いていないことが、社会に届いていないと感じていま

ミニニュース
講演会「帝国の慰安婦」批判
シリーズ「戦後70年」植民地解放70年歴史の声を聴く」第3回 歪められた植民地支配責任を朴裕河「帝国の慰安婦」批判
日時 11月28日(土)
14時〜16時30分(13時30分開場) ▼会場 立教大学池袋キャンパス5号館5210教室 JR・東武東上線・西武池袋線・東京メトロ「池袋駅」下車
西口から徒歩約7分 ▼資料代 800円(会員700円) ▼講師 鄭栄桓(チョン ヨンファン)さん(明治学院大学准教授) ▼主催 パウラック